

建築、開発、まちづくりに関わる方必見

暑さをしのぐ環境づくりリーフレットを作成しました

8月の平均気温が観測史上最高となった2020年には、年間真夏日日数が50日となるなど、地球温暖化とヒートアイランド現象による、都市の高温化が顕著になっており、厳しい暑さをしのぐ環境づくりが求められています。

そこで、**横浜の気温に影響を与える「風」と「緑」の特性**を知り、地域に合った**具体的な対策を考えるためのリーフレット「都市環境気候図を活用した暑さをしのぐ環境づくりの手引き」**を作成しました。建築、開発、まちづくりの際にぜひご活用ください！



風や緑の地域特性を知り、取組を3つのステップで考える

Step 1
「風の吹き方を知る」
市域の中でも風向や風が届く時間が違います！**夏の卓越風で5つにゾーン分け**

「暑さをしのぐ環境づくりのためのヒントマップ」
リーフレットの主役です！「風」と「緑」の地域特性を可視化した**都市環境気候図！**

Step 3
「具体的な取組の検討」
ゾーンごと、主な土地利用別に具体的な取組を例示！

ヒントマップを活用した暑さをしのぐ環境づくりのための3つのステップ

Step 1 風の吹き方を知る

暑から体を守るには、日中の気温の上昇を抑える効果が重要です。気候は風の向きや強さによって5つのゾーンに分かれます。ヒントマップをみて風の吹き方を把握し、風の向きや強さを確認してください。

ゾーン	特徴	風速	風の吹き方
Zone 1	東海側平野部	強風域	北東から南西へ吹く
Zone 2	東海側平野部	強風域	北東から南西へ吹く
Zone 3	東海側平野部	強風域	北東から南西へ吹く
Zone 4	東海側平野部	強風域	北東から南西へ吹く
Zone 5	東海側平野部	強風域	北東から南西へ吹く



Step 2 緑の効果を知る

緑地が夜間の気温低減の効果が大きい。緑地の割合が大きいほど、夜間の気温低減の効果が大きい。緑地の割合が大きいほど、夜間の気温低減の効果が大きい。

緑地の割合	効果
10%未満	夜間の気温低減効果が小さい。
10%~20%	夜間の気温低減効果がやや大きい。
20%~30%	夜間の気温低減効果が大きい。
30%以上	夜間の気温低減効果が非常に大きい。

Step 3 具体的な取組の検討

7つの「暑さをしのぐ取組」を提案しています。それぞれの地域や土地利用別に、具体的な取組を提案しています。

取組	Zone 1	Zone 2	Zone 3	Zone 4	Zone 5
風を利用しよう	◎	◎	◎	◎	◎
緑地を増やそう	◎	◎	◎	◎	◎
水を利用しよう	◎	◎	◎	◎	◎
屋根に取組よう	◎	◎	◎	◎	◎
外壁に取組よう	◎	◎	◎	◎	◎
窓に取組よう	◎	◎	◎	◎	◎
庭先に取組よう	◎	◎	◎	◎	◎
緑地を活用しよう	◎	◎	◎	◎	◎

Step 2
「緑の効果を知る」
緑地は夜間の気温低減の効果あり！
周りがある緑の割合で4つに色分け

1つ1つの取組が繋がって
「暑さをしのぐ快適で魅力的なまちへ」
敷地ごとに積極的に取り組むことで、将来的にまち全体に取組が繋がります

監修：広島大学大学院先進理工系科学研究科教授 田中 貴宏 氏
国立研究開発法人海洋研究開発機構 杉山 徹 氏
主な配布先：市民情報センター（市庁舎3階）、各区役所など
その他、ホームページにも掲載

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/ondanka/etc/heat.html>



お問合せ先	
環境創造局政策課長	兵頭 輝久 Tel 045-671-2686